

第16回全共まで1カ月

戦後まもない1951(昭和26)年に神奈川県平塚市で第1回全共が開かれて以来、ほぼ5年ごとに各地で開かれてきた。全国の酪農家が改良の成果を競う共では、時代ごとの改良の頂点が示されてきた。開催まで1カ月に迫った、各開催年の酪農情勢とともに全共のあゆみを振り返りたい。

第1回昭26神奈川県
平塚市の競馬場。3月24日、27日開催された。29道府県から157頭が出展され、参観者は10万人。審査団は2班7名、牛の引き出しは3〜4回行われた。

初日は昭和天皇をお迎え、吉田茂総理大臣、広川弘毅農相らが会場を訪れた。この9月にサンフランシスコ講和条約、日米安保条約が調印され、まさに戦後復興の途上にあった。

名譽賞は北海道・宇都宮勲さんの「マランベス パーク ロメオ シエマイマ」。

第2回昭31静岡県
静岡市の駿府公園で3月23日、27日開催。23都府県から278頭が出展され、参観者は30万人に達した。審査団は3班13名が3会場に分かれ、比較審査を2日間で行われた。

第3回昭36長野県
松本市の市営球場。3月23日、27日開催。59道府県から40万人。審査団は総括審査委員2名と担当された。42都道府県から26頭が出展。参観者は30万人に達した。審査団は3班13名が3会場に分かれ、比較審査を2日間で行われた。

第4回昭41福島県
福島市の競馬場。3月18日、22日開催。42都道府県から278頭が出展。名譽賞は北海道・宇都宮勲さんの「2 スカイラック サイクロン オールビー」。

第5回昭45愛知県
豊橋市の豊橋公園で11月20日、24日開催。44都道府県から295頭出展。参観者52万人。審査団は総括審査委員1名、班主任3名、部担当13名、計17名が3班3会場に分かれて実施した。

第6回昭50兵庫県
淡路島の建名町(現淡路市)で、20ha余りの埋立地で一面を牧草で覆い、10月29日、11月3日開催。44都道府県から291頭出展。参観者20万人。審査団は16名で各部を審査。初めての円形歩行を取り入れられた。

第7回昭56群馬県
前橋市、利根川縁の運動公園で4月15日、19日開催。46都道府県から298頭出展。参観者36万人。審査団は前回同様の16名で実施。

第8回昭60岩手県
滝沢村(現同市)の岩手県農業文化センターの柿田牧場で開催された。参観者は、岩手県が多数の催事場として新設された。

第9回昭62熊本県
合志町(現同市)の県農業公園で11月22日、26日開催。45都道府県から293頭出展。参観者64万人。審査は前回同様3班13名が3会場に分かれ、比較審査を2日間で行われた。

第10回平7千葉県
千葉市の千葉ポートパークで11月23日、26日開催。45都道府県から298頭出展。参観者84万人。審査は未経産、経産の2部門に分け、それぞれに正・副審査委員各1名を配して行い、牛のリングへの登壇も一回だけとなった。

第11回平12岡山県
備前市(現岡山市南区)の埋立地(草地)で11月2日、5日開催。44都道府県から297頭出展。参観者66万人。岡山県酪農の特色を引き出すため、16年ぶりに第3回全日本ジャージー共進会(60頭)も同時開催された。

第12回平17栃木県
壬生町の県有地で11月3日、6日開催。363頭出展。参観者69万人。前回に引き続き、ジャージー種(60頭)の第4回全共も同時開催された。



第1回神奈川県平塚市(昭26・3月)

全日本ホルスタイン共進会開催年の背景										【農林水産統計調査から一部引用】	
回	年	場所	酪農家戸数	飼養頭数	1戸平均頭数	生乳生産トン	出品頭数	参観者千人			
1	昭和26	神奈川県	150,500	225,800	1.5	437,700	157	100			
2	31	静岡県	283,200	497,400	1.8	1,153,600	200	200			
3	36	長野県	413,000	884,900	2.1	2,113,500	226	300			
4	41	福島県	360,700	1,310,000	3.6	3,408,800	278	400			
5	45	愛知県	307,600	1,804,000	5.9	4,961,000	295	520			
6	50	兵庫県	160,100	1,787,000	11.2	6,610,200	291	200			
7	56	群馬県	106,000	2,104,000	19.8	7,137,500	298	358			
8	60	岩手県	82,400	2,111,000	25.6	7,380,369	297	385			
9	62	熊本県	63,300	2,058,000	32.5	8,189,348	293	341			
10	平成2	千葉県	44,300	1,951,000	44.0	8,382,162	298	839			
11	7	岡山県	33,600	1,764,000	52.5	8,497,278	297	661			
12	12	栃木県	26,600	1,636,000	61.5	8,137,512	363	689			
13	17	北海道	21,900	1,484,000	67.8	7,720,456	中止				
14	22	北海道	17,700	1,371,000	77.5	7,379,234	374	66			
15	令和2	宮城県	14,400	1,352,000	93.9	7,438,218	中止				
16	7	北海道	11,300	1,293,000	114.4						



第1回 昭和天皇の行幸



第5回愛知県豊橋市(昭45・11月)



第11回岡山県瀬崎町(平12・11月)



第14回札幌会場(平27・10月)

～七十余年の歴史を振り返る～ 全日本ホルスタイン共進会のあゆみ

公式SNSで
全共情報をチェック!!

@HCAJ2025

X@zenkyo2025

り、赤白斑牛が初名譽賞に選ばれた。2年前の54年から生乳の計画生産に入り、酪農規模拡大路線に乗りだした。この年、自民党農林水産部次官・橋本聖一氏の「ハイローンサイテーション」を、名譽賞は北海道・植田晃雄さんの「エム・ビー・ロイヤル」が選ばれた。

第8回昭60岩手県
滝沢村(現同市)の岩手県農業文化センターの柿田牧場で開催された。参観者は、岩手県が多数の催事場として新設された。

第9回昭62熊本県
合志町(現同市)の県農業公園で11月22日、26日開催。45都道府県から293頭出展。参観者64万人。審査は前回同様3班13名が3会場に分かれ、比較審査を2日間で行われた。

第10回平7千葉県
千葉市の千葉ポートパークで11月23日、26日開催。45都道府県から298頭出展。参観者84万人。審査は未経産、経産の2部門に分け、それぞれに正・副審査委員各1名を配して行い、牛のリングへの登壇も一回だけとなった。

第11回平12岡山県
備前市(現岡山市南区)の埋立地(草地)で11月2日、5日開催。44都道府県から297頭出展。参観者66万人。岡山県酪農の特色を引き出すため、16年ぶりに第3回全日本ジャージー共進会(60頭)も同時開催された。

第12回平17栃木県
壬生町の県有地で11月3日、6日開催。363頭出展。参観者69万人。前回に引き続き、ジャージー種(60頭)の第4回全共も同時開催された。

第13回平22北海道
4月20日宮崎県で「口」を、

第14回平27北海道
安井町の北海道ホルスタイン家畜市場・同共進会場で10月23日、26日開催。45都道府県から293頭出展。参観者64万人。審査は前回同様3班13名が3会場に分かれ、比較審査を2日間で行われた。

第15回(令2)九州・沖縄ブロック
第15回全共は初の全九州・沖縄ブロック開催として10月31日、11月2日に宮崎県・都城市の都城地域家畜市場で開催予定であった。

第16回(令7)北海道
第15回全共と同様に安井町の北海道ホルスタイン家畜市場で開催予定であった。

第17回(令12)岡山県
備前市(現岡山市南区)の埋立地(草地)で11月2日、5日開催。44都道府県から297頭出展。参観者66万人。岡山県酪農の特色を引き出すため、16年ぶりに第3回全日本ジャージー共進会(60頭)も同時開催された。

第18回(令17)千葉県
千葉市の千葉ポートパークで11月23日、26日開催。45都道府県から298頭出展。参観者84万人。審査は未経産、経産の2部門に分け、それぞれに正・副審査委員各1名を配して行い、牛のリングへの登壇も一回だけとなった。

第19回(令22)北海道
4月20日宮崎県で「口」を、

第20回(令27)北海道
安井町の北海道ホルスタイン家畜市場・同共進会場で10月23日、26日開催。45都道府県から293頭出展。参観者64万人。審査は前回同様3班13名が3会場に分かれ、比較審査を2日間で行われた。

れた全天候型の施設。初部門にそれぞれ正・副審査委員6名で実施した。輸入種雄牛の娘牛が88%を占めたが、後代検定済の種雄牛の娘牛も初めて出品された。この年、自民党農林水産部次官・橋本聖一氏の「ハイローンサイテーション」を、名譽賞は北海道・植田晃雄さんの「エム・ビー・ロイヤル」が選ばれた。

第10回(平7)千葉県
千葉市の千葉ポートパークで11月23日、26日開催。45都道府県から298頭出展。参観者84万人。審査は未経産、経産の2部門に分け、それぞれに正・副審査委員各1名を配して行い、牛のリングへの登壇も一回だけとなった。

第11回(平12)岡山県
備前市(現岡山市南区)の埋立地(草地)で11月2日、5日開催。44都道府県から297頭出展。参観者66万人。岡山県酪農の特色を引き出すため、16年ぶりに第3回全日本ジャージー共進会(60頭)も同時開催された。

第12回(平17)栃木県
壬生町の県有地で11月3日、6日開催。363頭出展。参観者69万人。前回に引き続き、ジャージー種(60頭)の第4回全共も同時開催された。

第13回(平22)北海道
4月20日宮崎県で「口」を、

第14回(平27)北海道
安井町の北海道ホルスタイン家畜市場・同共進会場で10月23日、26日開催。45都道府県から293頭出展。参観者64万人。審査は前回同様3班13名が3会場に分かれ、比較審査を2日間で行われた。

第15回(令2)九州・沖縄ブロック
第15回全共は初の全九州・沖縄ブロック開催として10月31日、11月2日に宮崎県・都城市の都城地域家畜市場で開催予定であった。

第16回(令7)北海道
第15回全共と同様に安井町の北海道ホルスタイン家畜市場で開催予定であった。

第17回(令12)岡山県
備前市(現岡山市南区)の埋立地(草地)で11月2日、5日開催。44都道府県から297頭出展。参観者66万人。岡山県酪農の特色を引き出すため、16年ぶりに第3回全日本ジャージー共進会(60頭)も同時開催された。

第18回(令17)千葉県
千葉市の千葉ポートパークで11月23日、26日開催。45都道府県から298頭出展。参観者84万人。審査は未経産、経産の2部門に分け、それぞれに正・副審査委員各1名を配して行い、牛のリングへの登壇も一回だけとなった。

第19回(令22)北海道
4月20日宮崎県で「口」を、

第20回(令27)北海道
安井町の北海道ホルスタイン家畜市場・同共進会場で10月23日、26日開催。45都道府県から293頭出展。参観者64万人。審査は前回同様3班13名が3会場に分かれ、比較審査を2日間で行われた。



第14回最高位賞

日本ホル協特集

ロボットせ寄餌

自走式 小型

コストダウン

年間最大180時間削減

国内製

つなぎ牛舎にも対応

第16回全日本ホルスタイン共進会出展

福岡県糟屋郡粕屋町仲原 1847-1

☎ NBPlanning@rix.co.jp

RIX リックス株式会社

Love Earth. Love Life.

やさしさが、のみのものだったら。
それはきっと、ミルクだと思う。

その強くやさしい自然の力は、じんわり身体にしみていく。
人と自然は、つながっている。

健全な大地は、食と人を健やかにする。
この循環をもっと大きく、もっと強くしていきたい。
気候変動や人口急増により、食のあたりまえが揺らぐ今。
酪農・乳業を起点に、ミルクで培った技術をさまざまな領域に広げていく。

これからの100年。
私たちは社会課題に挑む精神で、
人と自然が健やかにめぐる食の未来を育んでいきます。

雪印メグミルク